

## 平成18年度以降の県立高等学校の在り方について

### (1)パブリックコメントについて

平成17年6月17日

高等学校課

平成18年度以降の県立高等学校の在り方などを検討するため、広く県民から意見や提案を募集した。(資料参照)

#### 1 意見募集したテーマ

(1)平成18年度以降の県立高等学校の在り方について

(2)県立高等学校の通学区域の在り方について

2 募集期間 5月13日(金)から6月6日(月)まで

3 応募状況 応募総数 60件

平成18年度以降の県立高等学校の在り方について... 57件

- ・普通学科志向は高まっているとの方向での意見(12件)
- ・専門学科の内容を充実すべきとの方向での意見(6件)
- ・普通学科の減もやむを得ないとの方向での意見(4件)
- ・学級の定員減を検討すべきとの方向での意見(17件)
- ・その他の意見(26件)

県立高等学校の通学区域の在り方について..... 33件

- ・通学区域を廃止する方向での意見(10件)
- ・現状の通学区域を維持する方向での意見(15件)
- ・その他の意見(8件)

#### 4 主な意見

(1)平成18年度以降の県立高等学校の在り方について

##### 《普通学科志向は高まっているとの方向での意見》

中学生の段階で自分の進路や就職に沿った学科を選択することは難しく、普通学科を志望する者が多くなっている。

生徒、保護者とも上級学校への進学希望が多く、普通学科の必要性が高まっている。専門学科との定員割合に配慮しつつも、普通学科を少しでも多く残すべきだ。

##### 《専門学科の内容を充実すべきとの方向での意見》

企業としては資格を有し、専門的な知識や技能を身につけた生徒を求めている。専門学科の教育内容を充実してほしい。

普通学科希望は強いものの、地元企業のニーズに合った人材育成をするため、専門学科の選択肢は広げておく必要がある。

《普通学科の減もやむを得ないとの方向での意見》

普通学科の定員割れの現状や私立普通学科の新設などから、普通学科の減も妥当。普通学科の割合が多いので、普通学科の減も妥当。

《学級の定員減を検討すべきとの方向での意見》

これ以上の学校の再編成は地域の活力の低下を招くことになる。少人数学級を全国に先駆けて導入すべきだ。

学級定員を減少させれば、教員が生徒一人一人に向き合おう機会が増え、教育の充実につながるのではないか。

《その他の意見》

高等学校の在り方の検討の中には、私立高等学校も含めて考えてほしい。8：2の募集定員割合が定められた頃に比べて少子化は進んでおり、さらに私立に配慮することを検討してほしい。

生徒が減少していることから学級減もやむを得ないが、各学校は進学や部活動、専門学科などの特色を出して魅力ある学校づくりに努力すべきだ。

(2) 県立高等学校の通学区域の在り方について

《通学区域を廃止する方向での意見》

県立学校は競争意識が薄いので、通学区域を廃止して危機感を持たば学校運営も活性化するのはないか。

普通学科も学校によって特色があるので、選択肢は広げたほうがよい。

今でも旧羽合町と旧泊村の生徒は同じ中学校でありながら、普通学科の通学区域が異なっており不公平感がある。小さな県なので、どこからでも通学可能とすべきだ。

《現状の通学区域を維持する方向での意見》

通学区域が拡大されると、保護者の経済的負担が大きくなったり、また、特定の学校に人気が集中することにならないか。

地域の子どもは地域で育てる意識が地域の活性化にもつながる。

《その他の意見》

通学区域を廃止すると、生徒や保護者に適切な進路指導をするのに不安がある。まずは、各学校が特色ある学校づくりが求められる。

住宅計画など人口の変動傾向などと併せて検討すべき。